

目次

【1】 --- 教員コラム 19 弹 第 6 回 「読書についての雑文」 分子病態病理学 /宮川文

【2】 --- 【警告】「Medicina」「INTENSIVIST」「Hospitalist」
医書.jp の大量ダウンロードについて

【3】 --- [御礼] 秋の読書週間

【4】 --- 【12/11(木)17:00 開催】「京都府立医大の夜明け」 藤田哲也元学長講演

[Book Review] · · · 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 19 弹 第 6 回

「読書についての雑文」 分子病態病理学 /宮川文

図書室で江戸川乱歩の怪人二十面相シリーズを借りては読んだ小学生の頃から、高校時代の日本文学、生きる指針を探していた大学時代は中国古典、実業家や研究者の伝記ものなどを乱読して過ごしてきた。社会人になってからは専ら専門書、論文を読むことに時間を費やしているが、時に向田邦子、中井久夫、深代惇郎のエッセイ集を手にとり美文に酔いしれることもある。年齢を重ねて、例に漏れず歴史小説を好むようになった。最近では堀川恵子「暁の宇宙 陸軍船舶司令官たちのヒロシマ」が深い余韻を残した。

ところで、病理学者が登場する小説をご存知だろうか。きわめて有能だけれども超変人病理医が主人公の漫画「フラジャイル 病理医岸京一郎の所見」なら知られているかもしれない。小説でも病理学者は堅物で変人に描かれているのが気に掛かるが、名脇役として存在感を放っている。大学生の時に読んだ山崎豊子「白い巨塔」の大河内教授の人物像はいかにも昔の病理学者で、厳格でおっかなく全く足元にも及ばないが、主人公の財前教授の軽薄さよりはこちらが好みである。胃がんで亡くなった財前を病理解剖する場面などは厳肅そのものだ。また、アーサー・ヘイリーの「最後の診断」では、時流に取り残され自らの限界を悟り病院を去る老病理医ピアスンが、後を引き継ぐ有能な若手病理医コールマン

に「きみがあの椅子に座ったとたんに電話が鳴るだろう。その必要があったら押し入れの中に閉じこもれ、どんなに役職の雑務に追われても決して勉強を怠るな」というようなことを忠告する。駆け出し病理医だった当時も何故か心に残ったセリフである。この数か月間雑事に追われている自身の姿に重なる。今後しばらくは文献を読み込む時間を捻出するため娯楽の読書はお預けで、また退職後の楽しみに、と思っている。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】--- 【警告】「Medicina」「INTENSIVIST」「Hospitalist」

医書.jp の大量ダウンロードについて

現在トライアル中の「医書.jp」で連続的に大量ダウンロードが行われているとの指摘が、提供元よりありました。

「Medicina」の文献 150 回など、大量のログが検出され、本学からのアクセスが一時停止されました。復活後も、「INTENSIVIST」「Hospitalist」等、3 度にわたり大量ダウンロードが繰り返され、その度アクセスが停止されています。

「Medicina」は、附属図書館で冊子を所蔵しております。貸出も可能ですので、全ページをご覧になりたい場合は紙でご利用ください。特定雑誌の連続的ダウンロードは禁止事項です。大学全体に影響が及びますので、お一人お一人の適切なご利用をお願いします。

=====

国内出版社 19 社 127 誌の電子ジャーナルをトライアルで提供中。※学内限定

◆アクセス先：<https://webview.isho.jp/journal>

◆トライアル期間：2025/11/30(日)まで

【3】--- 【御礼】 秋の読書週間

「2025 秋の読書週間」企画に多数のご応募、ありがとうございました。各企画の報告と今後の展開をお知らせします。[実施期間] 2025/10/16(水)～11/26(水)

その 1.広小路フォト・動画コンテスト

[応募総数] 15 点

旧図書館棟やコトスクエアなどの、思いがけない表情が集まりました。

[作品発表] 優秀作品を選定しご本人に連絡すると共にホームページでお知らせします。

その 2.しおりコンテスト

[応募総数] 210 点 (11/27 時点) +当日消印郵送分

日本全国、海外からもデータで、手書きで、続々と魅力的なデザインが集まりました。

[作品発表] 優秀作品を選定し、ご本人に連絡すると共に、館内やホームページで展示します。

その 3.としょかん川柳

[応募総数] 1872 句

図書館や本に関する川柳が、学内外 907 人から届きました。

[作品発表] 図書館員全員で全ての句に目を通し、数回の審査を経て優秀作品を選定します。結果はご本人に連絡すると共に、ホームページ等で発表します。

【4】--- 【12/11(木)17:00 開催】「京都府立医大の夜明け」藤田哲也元学長講演

Koto Square にて、藤田哲也 元京都府立医科大学長(名誉教授)をお迎えし、三水会例会として講演いただきます。藤田元学長は、2月に『維新京都 医学の開花 カルテを作ったお雇い外国人ヨンケル』を出版されました。今講演では、本学の歩みを彩る歴史と未来へつながる想いを、先生の温かい語り口でお話いただけることと思います。お誘いあわせのうえ、ぜひお気軽にご参加ください。

藤田哲也 元学長講演 「京都府立医大の夜明け」

日時 2025/12/11(木)17:00

場所 附属図書館 1 階 ラーニングコモンズ 「Koto Square」

講師 藤田 哲也 元京都府立医科大学長（名誉教授）

参加 無料

申込 応募フォーム <https://forms.gle/VYtA4aa3RfTEsJjh7>

QR コードは[こちら](#)

※1 回で 2 名まで登録可能です。

※当日の参加も歓迎いたします。

=====

「京都広小路通信」では、藤田元学長へのインタビュー記事を掲載しています。
講演をより深くお楽しみいただくために、併せて御覧ください。

前編 [目の前の閂門を突破して 全力で駆け抜けるしかなかった](#)

後編 [豊かな文化を育むための 知的環境を整備することが大切](#)

[Book Review] . . . 編集後記にかえて

.....

本田美和子/イヴ・ジネスト/ロゼット・マレスコッティ著
『ユマニチュード入門』(医学書院 2014年)

「見る・話す・触れる・立つ—その4つが、ケアを変える。」

友達からこの本ある?と聞かれて初めて知った図書です。

この本は、フランスで生まれたケア技法「ユマニチュード」をわかりやすく解説した実技入門書です。単なる介護技術ではなく、認知症ケアを中心に、人を「人として尊重する」ための哲学と実践が詰まっています。印象的なのは、コミュニケーションを「目線の高さを合わせる」ことから始めるという考え方。小さな工夫で、安心感や信頼が生まれることに驚かされます。

この本の魅力は「ことばの力」、そして随所に差し込まれるイラストです。イラストによってケアの方法がよりわかりやすく示されています。「ケアは、相手の尊厳を守る行為」という言葉が心に響きます。介護に関わる人はもちろん、人と接するすべての人におすすめしたい一冊です。(M.H.) (2階閲覧室 369.26||H)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4260020285>

.....

図書館メール News557 号 2025.11.27 発行 (隔週木曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>